

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目(令和元年度)

項目名	課題	対策	
1 死因究明及び身元確認に係る業務に従事する警察等の職員、医師、歯科医師等の人材の育成及び資質の向上について	死因究明等の精度を高めるためには、警察等の捜査機関による検視、医師による検案、歯科医師の歯科所見による身元確認、死亡時画像診断(死後画像の撮影・読影)等に従事する人材の育成及び資質(正確性)の向上を図る必要がある。	各機関において、死因究明等に係る業務(検視、検案、解剖、歯牙鑑定、死亡時画像診断等)に従事する人材の育成及び資質向上を目的とした研修会等の取組みを継続的に行う。また、他機関が開催する研修会、複数の機関が合同で開催する研修会等に積極的に参加する。 (県警、海上保安部、医師会、歯科医師会、法医学教室、放射線技師会、県)	
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	①本年度における取組実績(予定を含む)	②取組における課題など(実施できていない理由等)
県警・検察庁	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捜査員を対象に、5・6月に巡回教養、7月に検視専科を実施、11月に検視講習を実施 ・検視専科では医師等による専門的教養の他、実践的な特異事案想定訓練を実施 ・H30年10月の四国管区検視官会議において特異事例発表 ・H30年12月の全国検視官会議へ出席し、情報共有を図っている ・H30年6月に高知県警察協力医会を開催し、高知大学医学部法医学教室の古宮教授による講演を実施 ・H30年6月に高知県歯科医師会との合同研修会を開催し、日本大学歯学部教授による講演及び模擬訓練を実施 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捜査専科、巡回教養等を通じて捜査員の教養強化に努めているが、勤務状況や事案発生等の状況により受講できない場合があり、実施日を変更する等により対応している 	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捜査員を対象に、5・6月に巡回教養、7月に検視専科、11月に検視講習を実施(検視専科では医師等による専門的教養のほか、実践的な特異事案想定訓練を実施) ・6月に高知県警察協力医会を開催し、高知大学医学部法医学教室の古宮教授による講演を実施 ・9月の中国・四国管区検視官会議において特異事例発表 ・12月の全国検視官会議へ出席し、情報共有を図っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・検視専科、巡回教養を通じて毎回教養強化を高めるように努力しているが、署の捜査員の勤務状況、事案発生状況により受講できない場合がある <p>(実施日を変更する等して対応)</p>
海上保安部	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年4月の定期異動で、和歌山県立医科大学において1年間法医学研修を履修した職員が赴任したことから、同職員を講師として定期的に研修を実施して職員の技能向上を図っている 	<p>〈実施中〉</p> <p>平成31年4月の定期異動で、検視官に指名された職員が2名となった。</p> <p>同職員の知識を活用し、定期的に現場臨場する職員に対する研修を実施している他、高知県警察が実施する講習会へも職員を参加させ、職員個々の資質向上を図っている。</p>	
医師会	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検案書の書き方や大規模災害発生時及び在宅での検案の問題を中心に講演会を開催 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の人選や講演回数増加は場所や費用面で制限がある 	<p>〈実施中〉</p> <p>令和元年11月: Aiの死体検案、法医解剖への活用に関する講演開催。</p> <p>令和元年11月: 災害医療対策訓練(香南市)</p> <p>令和2年1月: 遺体対応訓練(香南市)</p>	<p>依頼する講師に関する情報が乏しい。</p> <p>他機関との交流が少ない。</p>
歯科医師会	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年6月に高知県警と合同で身元確認研修会を実施 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会は隔年開催であり、受講者の偏りもあり、全地区への浸透に疑問がある 	<p>〈実施中〉</p> <p>県警、海上保安庁、自衛隊を対象とした身元確認講習会を開催。</p> <p>令和2年度には、県警、高知県歯科医師会合同研修会を開催予定</p>	
放射線技師会	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H31年1月にAiに関する講習会を開催 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aiに関心がある診療放射線技師が少ない ・勤務施設のAi実施不可等の理由から、Ai講習会への参加数が伸びない(H30年9月参加19名) 	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もAiに関する講習会を開催し、Ai業に関する人材育成に努めたい。 <p>開催日2019年12月14日(土)15:00～総合あんしんセンター3階 中会議室。「Aiについて」令和2年4月より施行される死因究明推進基本法も含めて研修する。講師 本会常務理事 大川剛史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本オートプシー・イメージング(Ai)技術研究会の運営委員として本会理事が参加している。各種の画像検査、画像処理、画像管理の最新技術を活用して最適な画像情報を提供し、読影補助により社会貢献に寄与することを目的として設立された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Aiを日常業務として診療放射線技師が取り組むために施設規模での協力が必須であるが、勤務施設の理由により実施できない所もある。 ・医療過誤・事故などでAiを医療安全管理の部門に取り入れることが課題である。 ・高知県主催のAi研修会を開催して頂き、Aiに関する人材育成と協力体制を確保する取り組みをお願いしたい。
法医学教室	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法医学関連の学会に参加・発表し、各教員の資質向上を図った ・平成30年度高知県医師会検案業務研修会に出席 ・大学院生に対し、法医学的専門教育を行った 	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法医学関連の学会や研修会等に参加し、各教員の資質向上を図っている ・令和元年度死体検案研修会(上級)の見学実習にて県内医師1名を指導 ・死体解剖資格取得に向け県内医師1名を指導 	
県	<p>〈実施予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師養成奨学貸付金制度の要件を見直して、県内で勤務する臨床医だけでなく、法医学を志す医師にも対象を拡大し、人材確保の支援を行う。現在、制度上は適用可能とした【担当:医療政策課】 	<p>令和元年度に、医師養成奨学貸付金受給者で法医学を志す医師として勤務するものはいない。</p>	特になし。

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目(令和元年度)

項目名	課題	対策	
2 警察等における死因究明等の実施体制の充実について	警察等における死因究明等の実施体制の充実を図るためには、個々の警察官等の技術向上のみならず、組織全体として体制の整備を行い、検視官の臨場率の更なる向上を図る必要がある。また、薬毒物定性検査への対応など科学捜査機能の充実を図る必要がある。	死因が犯罪行為に起因するものであるかどうかという判断のみならず、自殺や労災事故の予防、感染症の早期発見等、公衆衛生の向上を念頭にした対応に万全を尽くすため、異状死体の取扱業務に従事する警察官や海上保安官に対する検視技能向上を図るとともに、薬毒物定性検査を迅速かつ的確に実施できる科学捜査研究所の体制整備を充実させる。また、人員体制及び科学捜査機能を充実するための取組みを継続的に行う。 (県警、海上保安部)	
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	①本年度における取組実績(予定を含む) ②取組における課題など(実施できていない理由等)	
県警・検察庁	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度から検視官4名(1名増)、検視係長4名(1名増)の体制となり、臨場率 95%以上を維持している(昨年同時期比で約3%増) 検視官が臨場できない現場では電話連絡等により現場の詳細状況を確認している 薬毒物関係のインスタントビュー等の検査実施件数は昨年同時期比で 135 件増加(実施率は 17.1%増) 積極的な解剖実施により、昨年同時期比で9体増加(解剖率は1%増) <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 検死官、検視係長を増員するも、夜間における同時間帯での複数事案の発生や、遺体を遺族へ早期に返還する必要性、東西に広い地理的な問題等から、臨場率 100%を維持するのは困難 	<p>〈実施中〉</p> <p>臨場率は昨年同様に 95%以上を推移(R1、11 月末・99.0%)、昨年同時期比 1.2%増加(H30 年 11 月末・97.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 検視官が臨場できない現場では、データ端末による映像送信によって、現場の詳細な状況を確認している インスタントビュー等検査実施数は 27 件増加、実施率は昨年同時期比約 1.6%増加 積極的な解剖を実施し昨年同時期比6体増加、解剖率は 0.1%減少 	<p>検視官、検視係長を増員するも、</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜間における同時間帯の複数発生、遺体を遺族へ早期返還する必要性 東西に広い地理的な問題等、臨場率 100%を維持するのは困難である
海上保安部	<p>〈実施中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> H30 年4月の定期異動で、和歌山県立医科大学において1年間法医研修を履修した職員が赴任したことから、同職員を講師として定期的に研修を実施して職員の技能向上を図っている H30 年7月、11 月に実施した高知県警の検視講習に参加 	<p>〈実施中〉</p> <p>高知県医師会、歯科医師会、高知県警察本部が実施する会合に参加し、関係強化を図った。</p> <p>また、高知医科大学病院法医学教室との打ち合わせを重ね、死因究明のための連携強化を図っている。</p>	
医師会			
歯科医師会			
放射線技師会			
法医学教室			
県			

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目(令和元年度)

項目名	課題	対策
3 死体の検案及び解剖の実施体制の充実等について	<p>高齢者人口の増加に伴う高齢者の孤独死など、異状死体の取扱数の増加が予想されることから、次の取組みを進める必要がある。</p> <p>①検案に従事する医師の確保 ②法医学を専門とする医師の確保及び大学医学部法医学教室の体制充実 ③在宅医療の普及に伴って在宅での看取りが今後増えることが予想される中、終末期患者の最期において、主治医による死亡診断が叶わない場合の救急搬送や、警察等の捜査機関による検視、主治医以外による検案等が散見されている。そのため、主治医が患者の死亡に立ち会えない場合の対応について、医師をはじめとする医療従事者と患者・家族との十分な話し合いとともに、関係機関で連携を図る必要がある。</p>	<p>①死体検案に従事する医師の継続的な確保に努める。(医師会、県警、海上保安部) ②高知大学医学部法医学教室は、県内で唯一の法医解剖の実施機関であり、法医学教育・研究の拠点でもある。同機関の機能充実と長期的な人材確保に努める。(法医学教室) ③在宅での看取りに円滑に対処するには、適切な看取りの仕組み作りが必要になるため、関係機関との連携・協力のあり方等について検討する。(医師会、県警、県)</p>
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	<p>①本年度における取組実績(予定を含む)</p> <p>②取組における課題など(実施できていない理由等)</p>
県警・検察庁	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検案医の確保について、高知県警察協力医会等を通じて呼びかけを行い、警察協力医会会員が1名増となった ・警察協力医会会員以外の医療機関へも、遺体の持ち込み検案を行っている <p>③<その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・明らかな在宅終末期患者の自然死に対し、捜査機関の調査が行われないう、関係機関の連携をより密にする必要がある 	<p>①<実施中></p> <p>高知県警察協力医会等を通じて呼びかけを行い、警察協力医会会員以外の医療機関にも理解を得ており、遺体の持ち込み検案、CT撮影を行っている</p> <p>②取組における課題など(実施できていない理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検案医師の高齢化、閉院のため検案医師が年々減少している ・明らかな在宅終末期患者の自然死に対し、捜査機関の調査が行われないう、関係機関の連携をより密にする必要がある
海上保安部	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師会、歯科医師会の会合に参加し、高知県警察本部と連携して所属医師等との意見交換を図った 	<p>①<実施中></p> <p>昨年当部取り扱いにあつては、司法解剖2件、新法解剖1件、医師による検案1件であった。</p> <p>医師会、歯科医師会、法医学教室の協力を得ながら強力に死因究明作業にあつており、検案医師確保に協力したい。</p>
医師会	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会の実施及び案内は県医師会ホームページで周知を行っている ・検案の見学等は検討中 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検案医から現場の声を聞ける機会を設ける必要がある <p>③<その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取りの際の医師や看護師の対応の問題点などを把握するための調査が必要 	<p>①<実施中></p> <p>日本医師協会 HP で e ラーニング視聴を周知していく。</p> <p>看取りや検案を行った医師に対し、意見等のアンケートを行う。</p> <p>穏やかな死に対する主治医等への対応研修</p>
師会 歯科医		
技師会 放射線		
法医学教室	<p>②<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声認識ソフトの導入により解剖所見記録の効率化および正確性の向上を図った 	<p>②<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の長期確保に向けた呼びかけ ・法医学教室所属の大学院生2名(医師1名、検査技師1名)を指導中 <p>・人事枠等の制限</p>
県	<p>③<実施予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の動向を注視しながら、県内でも人生の最終段階における医療のあり方の普及啓発の一環として、患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会を平成31年度開催予定【担当:医療政策課】 	<p>③<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生の最終段階における医療・ケアのあり方を検討する会議を設置し、9月に第1回会議を開催。患者の意向を尊重した意思決定支援ができる医療・介護職の人材育成と住民啓発を進めることを決定した。 ・8月、国主催の指導員研修会に在宅医療を行う医師1名を派遣。12月、国主催の相談員研修会が高知市で開催され、約90名の医療・介護職が受講した。 <p>・在宅看取りを含め、患者の意思を尊重した終末期の医療・ケアの提供を進展させるため、令和2年度は相談員研修会を県主催で開催する。</p>

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目(令和元年度)

項目名	課題	対策		
4 薬物及び毒物に係る検査、死亡時画像診断(Ai)その他死因究明のための科学的な調査の活用について	<p>①危険ドラッグなど様々な薬毒物が関連した異状死体が報告されている中、犯罪行為の解明や公衆衛生の向上につなげるため、薬毒物の正確な分析への対応が必要である。</p> <p>②死亡時画像診断(Ai)は捜査機関での活用が進んでいるが、外部依頼に対応可能なAi実施機関の偏在や、実施方法の標準化や専門知識を有する従事者が少ない現状がある。</p>	<p>①警察等では科学捜査体制・機能の充実を図るとともに、解剖実施機関である大学医学部法医学教室では、迅速かつ精度の高い薬毒物分析が行えるよう検査機器等の充実に努める。(県警、法医学教室)</p> <p>②死亡時画像診断(Ai)実施機関の普及を図るとともに、Aiの適切な利用を進めるため、検査技術の標準化(撮影方法、結果の報告等)やAi読影医の確保及び読影能力の向上に努める。(医師会、放射線技師会、県警、法医学教室)</p>		
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	①本年度における取組実績(予定を含む)	②取組における課題など(実施できていない理由等)	
県警・検察庁	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学捜査研究所による鑑定を実施し、迅速な結果回答を行う ・簡易薬物検査(インスタントビュー)、青酸化合物簡易検査(シアンチェッカー)を実施している <p><その他></p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的に鑑定室を増設予定があるが、予算確保や設置場所の問題等がある <p>②</p> <p><実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aiの実施件数は昨年同時期比で63件増加(実施率は同時期比で8.9%増) 	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aiの実施数は昨年同時期比94件増加、実施率は昨年同時期比7.8%増加 		
海上保安部				
医師会	<p>②</p> <p><実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本医師会ではAi講習会を年に1回程度開催しており、県内からも参加している ・高知CT研究会においてAiに関する特別講演を開催(H30年6月 高知県放射線医会共催) <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ai画像の読影機会を増やす必要がある ・Aiと検案の両方に知識のある講師が少なく、十分なAi所見を活用できない 	<p>②<実施中></p> <p>日本医師会でのAiや検案講習会等の情報を伝える。</p>	<p>Aiを熟知した医師の養成及び方針ができていない。</p>	
師会 歯科医				
放射線技師会	<p>②</p> <p><実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aiの適切な利用を進めるための広報活動を継続して行う ・Ai講習会を開催し、Ai検査技術の標準化を進めたい <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aiの外部依頼に関しては、各施設個々の事情がある 	<p>②<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もAiに関する講習会を開催し、Aiに関する読影撮影技術の標準化や人材育成に努めたい。 講師は本会常務理事、日本Ai技術研究会 活用班班長 大川剛史 ・日本オートプシーイメージングAi技術研究会の運営に協力し、Ai撮影や読影などAiの技術の標準化や活用を推進したい。 	<p>令和2年4月1日から施行される死因究明推進基本法が始まるが、まだまだ、Ai技術の読影や撮影など、医療関係者の関心が低いと思われる。</p> <p>その背景には、各機関のAi技術料金(医師や診療放射線技師の報酬に反映されていない)が、現時点で決まっていないことと、異常死体や予期せぬ死因に関してAiの活用を義務化していないのが大きな要因であると思う。</p> <p>・医療安全管理の範疇で、不審死のAi義務化や、医療関係者のみならず、行政や報道関係者など、多職種へのAiの虐待・犯罪・事故・災害・予期せぬ死亡事例にはAiを活用していることの広報活動を各機関のお願いしたい。</p>	
法医学教室	<p>①</p> <p><実施予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・液体クロマトグラフ・質量分析計(LC-MS)の導入予定 <p>②</p> <p><実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖時にAi画像を参考にしている ・Ai画像所見と解剖所見を比較検討を行っている 	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来のガスクロマトグラフ・質量分析計(GC/MS)に加え、液体クロマトグラフ・質量分析計(LC/MS)を新たに設置し、薬毒物分析の精度向上および迅速化を図っている <p>②<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖前に死後CT画像を読影し、解剖時に活用している(令和元年度21例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬毒物分析装置(LC/MS/MS)の設置や、Ai利活用に向けた画像診断支援ソフトの導入を検討中 ・精密機器の設置・維持の予算 ・死後変化の進行した遺体におけるAi実施 	
県				

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目（令和元年度）

項目名	課題	対 策	
5 大規模災害発生時等の身元確認及び死体検案作業への対応について	南海トラフ巨大地震等の大規模災害発生時において大量の遺体が発生した場合、身元確認及び死体検案作業が困難を極めることが予想されるため、有事の際、それらの作業を円滑に実施できるよう訓練等によって有事に備える必要がある。	①身元確認に従事する歯科医師の確保及び歯科診療情報の標準化（全国共通の統一デンタルチャート導入）と同情報のデータベース構築等について検討する。（ 歯科医師会 ） ②大規模災害発生時において身元確認及び死体検案作業が適切に実施できるよう、日頃から関係機関の連携を図るとともに、平素から有事に備えるために、関連する訓練等への積極的な参加により、当該技能の向上に努める。（ 県警、海上保安部、医師会、歯科医師会、法医学教室、放射線技師会、県 ）	
	各機関における取組内容（予定含む）※前回協議会時点	①本年度における取組実績（予定を含む）	②取組における課題など（実施できていない理由等）
県警・検察庁	② 〈実施中〉 ・H30年6月に高知県歯科医師会と合同研修会を実施（日本大学歯学部教授による講演、模擬訓練を実施） ・H30年9月に宿毛市開催の災害警備訓練に参加 〈実施予定〉 ・発災時の検案作業が円滑に実施できるよう、光源や水の確保のための各備品を購入予定 〈その他〉 ・検案場所の確保（各署において2か所以上選定しているが、一時避難場所との重複が想定されるため複数箇所の確保が必要） ・検案場所の条件の見直しが必要（水の確保等）。	②〈実施中〉 ・10月土佐清水市の開催する災害防災訓練に参加 ・12月に高知県歯科医師会と合同研修会を実施予定 ・災害発生時の検視作業が円滑に実施できるよう、光源としてブルーイン投光器3台購入済み、水の確保のため水槽、浄水器等の備品につき、予算を要求中。	
海上保安部	② 〈実施中〉 ・医師会、歯科医師会の会合に参加し、高知県警察本部と連携して所属医師との意見交換を図った	②〈実施中〉 大規模災害発生にそなえ、日ごろからシュミレーション、研修を実施するとともに、大規模災害時に収容した遺体の安置所までの搬送方について、県担当部局と打ち合わせを継続している。	
医師会	② 〈実施中〉 ・南国市、香南市、香美市で遺体対応訓練を毎年実施 〈その他〉 ・多数遺体対応の机上訓練も必要 ・医療救護に時間を要し、検案は人手不足となる	②〈実施中〉 令和2年1月：香南市で遺体対応訓練を行う。 DMAT、JMATも含め他職種との連携が殆どできていない。	医師不足で検案に対する対応は困難である。
歯科医師会	① 〈実施中〉 ・デンタルチャートに関しては、全国統一が出来ている ・カルテ等の標準化は、モデル県の新潟県、静岡県で終了したが、個人情報保護法の問題があり、全体としては難航している ② 〈実施中〉 ・発災時、各地区の歯科医師会単位で、円滑に身元確認作業が行えるよう準備を進めている 〈その他〉 ・身元確認作業に必要な物資の備蓄をどうするか ・県民全員が被災者という状況下で、如何に人的動員を掛けるか	①〈実施中〉 生前デンタルチャートの保存等のモデル県実施は、今年度で終了する。後は、どういう形でデータ保存するかが問題点である。 （その他） 発災初期には、なかなか県外からの人材が期待出来ない中で、如何に県内会員で任務を遂行できるか問題。人材確保の為の情報伝達網の確保。	
放射線技師会	② ・施設によって個別に取り組んでいるところはあるが、会として特段の取り組みは無し 〈その他〉 ・可能であれば、合同訓練等に参加し、遺体検案の一環としてAiの訓練を実施したい	②〈実施予定〉 ・日本オートプシーイメージングAi技術研究会の活動として、大規模災害発生時Aiの活用について技術研究を行う予定である。	・災害時にAi活用は海外（オーストラリア・ビクトリア州）でもコロナ制度の中で行われている。国内でもAi活用推進を関係機関のご協力をお願いしたい。
法医学教室	② 〈実施中〉 ・高知大学医学部附属病院で実施した災害対応訓練に参加 ・平成30年度高知県警察協力医会総会に参加 〈実施予定〉 ・有事対応マニュアルを作成予定	②〈実施中〉 ・高知大学医学部附属病院で実施した災害対応訓練に1名参加 〈予定〉 ・法医学教室用の災害対応マニュアルを作成し、机上訓練を行う予定	
県	② 〈実施中〉 ・火葬場関係者等連絡協議会を開催 ・情報伝達訓練を実施（資機材調達、広域火葬受入れ調整等） ・広域火葬対応に関する研修会を開催【担当：食品・衛生課】	②〈実施中〉 ・8月：火葬場関係者等連絡協議会を開催（訓練実施報告等） ・11月：情報伝達訓練を実施（資機材調達、広域火葬受入れ調整等） ・1月：広域火葬対応に関する研修会を開催（岩手県現職による講演）、地域モデル事業を開催（高幡地域遺体対応検討会主催）、実地訓練を開催（南国・香美・香南地域災害時遺体対応検討会討会主催）	実地訓練の実施に負担感があり、マニュアルの更新に結びつかない

高知県における死因究明等の推進のために各機関で取り組むべき重点項目（令和元年度）

項目名	課題	対策	
6 死因究明により得られた情報の活用及び遺族等に対する説明の促進について	<p>①死因究明により得られた情報を関係機関・団体等で活用することにより、検案する医師の資質向上や死亡時画像診断(Ai)の精度向上を図る必要がある。</p> <p>②死者についての情報を知りたいという遺族の要望に応じるため、医師や警察官等は第三者のプライバシー保護に留意しつつ、丁寧かつ分かりやすい説明を行うことが求められている。</p>	<p>①Aiによって得られた異常所見情報を解剖診断時に活用できる仕組み(事例検討含む)や、解剖所見をAiの読影能力向上に役立てる方策について検討する。(県警、医師会、法医学教室、放射線技師会)</p> <p>また、死因究明及び身元確認業務に従事する関係機関による合同の事例検討研修会の実施について検討する。(県警、海上保安部、医師会、歯科医師会、法医学教室、放射線技師会)</p> <p>②遺族に対して死因等の説明を行う際は、丁寧で分かりやすい説明を心掛ける。また、死亡診断書(死体検案書)を交付する医師は、当該書類が人の死亡に関する厳粛な医学的・法律的証明であることを認識し、死亡者本人の死亡に至るまでの過程を可能な限り詳細に論理的に記載する。(県警、医師会)</p>	
	各機関における取組内容(予定含む) ※前回協議会時点	<p>①本年度における取組実績(予定を含む)</p> <p>②取組における課題など(実施できていない理由等)</p>	
県警・検察庁	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年6月に高知県警察協力医会を開催し、高知大学医学部法医学教室の古宮教授による講演を実施 ・H30年7月に検視専科を実施、11月に検視講習を実施 ・検視専科では医師等による専門的教養のほか、実践的な特異事案想定訓練を実施 <p>②<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当警察官から遺族に対して調査結果を可能な限り説明している 	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に警察協力医会を開催、高知医大法医学教室古宮教授による講演を実施 ・7月に検視専科を実施、11月に検視講習を実施 ・検視専科では、医師等による専門的教養のほか、実践的な特異事案の想定訓練等を実施 <p>②<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当警察官から遺族に対して調査結果を可能な限り説明している 	
海上保安部	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県警察本部と医師会、歯科医師会の各会合に参加し、所属医師等との意見交換を図った 	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> 医師会等が実施している研修会に参加し、最新の研究事例等について情報収集を実施している。 <p>②<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> 解剖医による説明等にあわせ、捜査結果・事件経緯について遺族説明を実施して納得を得る努力を行っている。 	
医師会	<p>①<実施予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討会開催は検討中 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討会には、Aiと解剖所見の対比検討のデータ蓄積が必要 	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年11月: Aiとの対比、講演会を開催した。 	<p>検案体験 Dr.間での意見交換がない。</p>
歯科医師会	<p>①<その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他団体との合同研修会は必須のものであるが、まだ、歯科医師会自体がそのレベルになっているかどうか。今後、2～3年でそのようなレベルに引き上げたい。 	<p>①<実施予定></p> <ul style="list-style-type: none"> 歯科医師会の死因究明に関する事項は、平時のものと大規模災害時の身元確認作業となるが、両者共に今後の技術獲得のための研鑽を、各会員に広めていきたい。 	
放射線技師会	<p>①<実施予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ai講習会を継続して開催し、Ai精度向上と読影能力向上に努める <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aiに関心がある診療放射線技師が少ない ・所属施設のAi実施不可によりAiの普及に繋がらない 	<p>①<実施予定></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年4月1日から施行される死因究明推進基本法が始まるので、今後も警察・医師会のご協力をお願いして、Ai技術標準化の読影や撮影など、基礎技術向上を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・死因究明推進基本法が始まるので、高知県下のAi実施医療機関のAi講習会参加の義務化に向けての取組強化、条例化等でAi技術の関心が高まるのでは？ ・医療安全管理講習会や行政機関でも関係者にはAi講習会開催をお願いしたい。
法医学教室	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aiによって得られた異常所見情報を解剖時に活用している <p>②<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度高知県警察協力医会総会後に、Ai画像所見と解剖所見の比較検討について発表した 	<p>①<実施中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度高知県警察協力医会にて、実際の中毒関連事例を提示し、知識や情報の共有を図った。 	
県			